

令和5年度 支援困難ケース検討型地域ケア会議活動実績

1 開催目的等

令和5年1月末現在

開催目的	<ul style="list-style-type: none"> 支援が必要な高齢者等のうち、一般的な支援方法では問題を解決することが困難な者の健康上及び生活上の問題について、医療、介護等の専門職や地域の福祉関係者等が、個人の課題に応じた支援の内容を検討し、問題解決を図ることにより、自立支援の促進と生活の質の向上を図る。 高齢者個人の課題分析等の積み重ねによる地域に共通した課題の明確化 多職種協働による困難事例等の支援を通じた地域支援ネットワークの構築
実施方法	主体：高齢者相談室（地域包括支援センター）（必要に応じて実施）
対象者	支援する人が困っている、必要な支援にサービスが繋がらない、権利擁護が必要など、問題解決が困難な事例を抱える高齢者等
参加者	高齢者相談室（地域包括支援センター）職員、介護支援専門員、介護サービス事業者、保健医療従事者、民生委員児童委員、住民組織、本人・家族、行政職員等
令和4年度に把握した課題	<ul style="list-style-type: none"> 複合的課題事例の増加に伴う地域の支援主体の負担の増大 <p>高齢者の課題だけでなく、その家族の認知症や精神疾患、介護負担、経済的困窮、地域からの孤立等、課題が複合化した事例が増えている。</p> <p>複合化した課題を解決するためには、地域住民を始め、多機関との連携が必要となり、相当な時間と労力が必要になることから、支援者の負担が増大している。</p> <p>支援者の負担を軽減し、適切な支援体制を充実するためにも、支援が必要な人の早期発見、伴走支援のためのネットワークの構築、「心配ごと」の段階で気軽に相談できる窓口の周知が必要となっている。</p>
令和5年度に取り組んだ内容	<ul style="list-style-type: none"> 地域支援ネットワークの構築 <p>会議の趣旨や目的、参加者の役割等を明確にし、必要なデータや社会資源等の情報を参加者間で共有した。</p> <p>本人だけでなく家族にも介護、医療、困窮等の問題があり、課題が複合化しているため、ケースに関わる多機関と連携して課題解決にあたった。</p>
改善効果	関係者の共通認識と合意形成を得られやすくなった。

2 支援困難ケース(複合的課題)の一例

支援の内容	支援参加者
<p>○精神疾患のある息子による母親への不適切行動(虐待等)がみられるケース 【状況・経過】 精神疾患のある息子が、母親(要介護)が利用するサービス事業所や入院先の病院で行き過ぎたクレームを繰り返している。母親が退院後に自宅に帰ることになると、サービス事業所は息子からのクレームを懸念して支援を拒否しており、母親を退院させることにさまざまなリスクがある。</p> <p>なお、息子は母親を外に置いたまま家の中に入れていない状態にしたことや、逆に自宅に閉じ込めたことがあり、虐待が認められている。そのため、息子が措置入院している間に、母親は退院後に施設へ入所させることとなったが、息子へ施設名等の情報開示拒否へのリスク対応について、法的な観点から苦慮している。</p> <p>息子は自身の退院後に母親を介護するつもりでいるため、母親と一緒に暮らすことはできないと伝える必要があるが、伝えると関係機関に押しかけて事件を起こしたり、本件への関係者を訴えたりする可能性がある。また、息子が退院後に治療のための通院をしなくなる可能性もあり、在宅支援のあり方を検討する必要がある。</p> <p>さらに、近隣住民はこの家族の状況を認識しており、積極的に関わりを持つとうしないため、息子が退院して母親と分離した後は、息子が地域で孤立してしまう可能性がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・居宅介護支援事業所 ・医療機関 ・医療ソーシャルワーカー ・社会福祉士 ・高齢者・障害者虐待対応専門職チーム ・弁護士 ・警察 ・重層的支援推進室

3 活動実績

(R5.4.1~R6.1.31)

(1) 地域ケア会議開催回数

	中央	天応・吉浦	昭和	宮原・警固屋	東部	川尻・安浦	安芸灘	音戸・倉橋	計	R4年度実績
開催回数	17	1	3	1	9	2	4	25	62	53
ケースの数	13	1	3	1	9	2	4	21	54	42

(2) 困難ケース対応件数

	R5	R4
継続支援中の数	17	12
R5年度中に終了した件数	45	41
合計	62	53

(3) 関係機関との連携件数

		R5	R4
市内	重層的支援推進室	57	48
	重層的推進室以外	26	31
市外	介護関係	37	34
	医療関係	35	31
	民生委員、自治会等 地域関係	36	34
合計		191	178

※重複あり

(4) ケース種別と対応件数(高齢以外)

	R5	R4
障害	23	22
子ども	0	1
困窮	15	14
引きこもり	9	9
合計	47	46

※重複あり

4 今後の対応等

令和5年度に把握した課題	<ul style="list-style-type: none"> 複合的課題事例の増加に伴う地域の支援主体の負担の増大 <p>高齢者の課題だけでなく、その家族の認知症や精神疾患、介護負担、経済的困窮、地域からの孤立等、課題が複合化した事例が増えている。</p> <p>複合化した課題を解決するためには、地域住民を始め、多機関との連携が必要となり、相当な時間と労力が必要になることから、支援者の負担が増大している。</p> <p>支援者の負担を軽減し、適切な支援体制を充実するためにも、支援が必要な人の早期発見、伴走支援のためのネットワークの構築、「心配ごと」の段階で気軽に相談できる窓口の周知が必要となっている。</p>
対応方針	<ul style="list-style-type: none"> 地域支援ネットワークの構築 一般的な支援方法で対応が困難なケースでは、地域ケア会議を通じて関係機関の間での情報の共有化を図り、課題解決に向けた対応を協議し支援にあたる体制づくりを進める。 相談窓口の周知 相談窓口や支援機関、福祉サービス等の支援に必要な地域資源情報の提供と広報PRの強化

【参考】高齢者相談室(地域包括支援センター)による報告

地域	地域ケア会議から見えてきた課題	解決に向けた対応	個別ケースに残った課題	地域課題
中央	<ul style="list-style-type: none"> 複合的課題 介護している家族が無収入やひきこもり、精神疾患、虐待等である8050問題が表面化している。 連携・違法行為 認知症高齢者による犯罪での警察等との連携が増加している。 	<ul style="list-style-type: none"> 連携強化 地域ケア会議を適宜開催し、関係機関と情報共有しながら支援の方向性を決定した。 見守り 定期的に訪問・面会し、本人の状況確認・必要な支援等を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 支援者 決定権は家族にあるが、家族に理解力や危機予測が乏しく支援が進まないため、課題が深刻化してからの対応になってしまう。また、認知症で身寄りがないケースの支援方法の判断等を誰がすべきか。 本人の行動が衝動的で制限することができない。 福祉サービス利用援助事業(かけはし)の新規申請ができないため、誰がどのように対応すべきか。 	<ul style="list-style-type: none"> 孤立 近隣住民との交流がなく、地域から孤立している。 支援者・地域連携 認知症や精神疾患が疑われる高齢者と地域住民の相互理解・良好な関係づくりが必要

地域	地域ケア会議から 見えてきた課題	解決に向けた対応	個別ケースに残った課題	地域課題
天応・吉浦	<ul style="list-style-type: none"> ・支援者 独居世帯であり支援者がいない。 ・地域連携 認知症や精神疾患が疑われる高齢者と地域住民との関わりが困難 	<ul style="list-style-type: none"> ・連携と役割分担 本人や地域住民の不安解消に向けて、行政職員や民生委員、医療機関等と連携し情報共有や役割分担して対処していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症 認知症の進行に伴い、周辺症状の出現がみられるが、訪問介護支援しか行えていないため、本人が孤立しない支援を検討する必要がある。 ・荷物で溢れて生活場所がない自宅の継続的な環境調整が困難 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援者・連携 地域で生活を再開する際に身寄りがなく孤立しているため、関係機関での見守り・支援体制の構築が必要
昭和	<ul style="list-style-type: none"> ・複合的課題 独居や高齢者のみの世帯に、認知症や精神疾患などの要因が重なり、金銭管理や身上監護の必要性が高くなっている。 ・支援者 独居や高齢者だけの世帯で支援者がいない。 ・地域連携 認知症や精神疾患が疑われる高齢者と地域住民との関わりが困難 	<ul style="list-style-type: none"> ・複合的課題・連携 重層的支援推進室や生活支援課、関係者と連携し、課題解決のための支援を行った。 並行して近隣住民による声かけ等の見守りを実施している。 ・支援者 地域活動や地域サロンへの参加勧奨を行い、当事者の自宅周辺での複数人による見守り体制を構築する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・複合的課題・支援者 認知症の進行により、金銭管理や独居生活が困難になった場合、将来の見通しや地域ができる支援等について早期の検討が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・見守り体制 隣人や地域関係者などによる見守りや支援体制はあるが、公共交通機関を利用して出かけた先で迷子になることがある。行動範囲が広い人を早期発見できるような仕組みづくりが必要 ・地域連携 迷惑行為による人的、物的被害が発生しないよう、また、特定の個人に支援負担が生じないよう連携及び理解が必要
宮原・警固屋	<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携 認知症や精神疾患が疑われる高齢者と地域住民との関わりが困難 	<ul style="list-style-type: none"> ・適切なサービスの利用 在宅サービスの活用と、将来的には施設入所も検討する。 ・連携と役割分担 本人や地域住民の不安解消に向けて、行政職員や民生委員、警察、医療機関等と連携し情報共有や役割分担して対処していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣トラブルによりお互いに不信感や不安を持ちながらの生活を余儀なくされている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携、認知症等に関する啓発活動 認知症や精神疾患が疑われる高齢者と地域住民の良好な関係づくりが必要

地域	地域ケア会議から 見えてきた課題	解決に向けた対応	個別ケースに残った課題	地域課題
東部	<ul style="list-style-type: none"> 複合的課題 介護や生活困窮、認知症、精神疾患、障害等、複合的課題を抱えており、対応が複雑化している家庭において、要介護者への適切な介護が行われていなかったり、虐待に発展したりする状況にある。 	<ul style="list-style-type: none"> 複合的課題・連携 重層的支援推進室、関係者と連携し、入院や施設入所、障害福祉サービス、介護保険サービス、家計等複合相談支援に繋ぐ方向で働きかけた。それらと並行して警察、医療機関とも連携した。 	<ul style="list-style-type: none"> 支援者 家族が課題解決の前提である現状の認識が難しく、支援能力に欠ける。（家族が課題を感じていない、あるいは課題から逃避している。） 孤立・複合化課題 家庭内の状況、課題が周囲に見えづらく、情報を得にくい。 認知症・精神疾患 認知症や精神疾患の影響でサービス介入や医療機関受診、服薬管理が難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 孤立 近隣住民との交流がなく、地域から孤立している。 支援者・地域連携 認知症や精神疾患が疑われる高齢者と地域住民の相互理解・良好な関係づくりが必要 金銭管理のためのサービスがない。
川尻・安浦	<ul style="list-style-type: none"> 認知症・支援者 認知症の進行により、金銭や荷物の管理が困難になるケースが増加している。それに伴い、独居や高齢者のみの支援者のいない世帯、家族関係が希薄な世帯が増加している。 	<ul style="list-style-type: none"> 連携 疎遠となった家族へ関係再構築のアプローチを行い、ヘルパー利用や施設入所など適切なサービス利用を検討していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 認知症 認知症の進行に伴い、ヘルパー利用や施設入所について同意しても、すぐに忘れてしまう。 支援者 家族が遠方にいる場合、頼ることができず孤立してしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> 支援者・孤立 子が自立していくことで高齢者のみの世帯が増えている。団地造成により他地域からの移住者が多いため、親族と遠方になつて頼ることができずに孤立しやすい。
安芸灘	<ul style="list-style-type: none"> 複合的課題 介護や経済的困窮、虐待、健康上の問題、認知症等の複合的課題を抱えており、対応が複雑化している。 	<ul style="list-style-type: none"> 複合的課題・連携 その世帯の持つ自助能力に留意しながら、関係する機関と連携し、課題解決のための支援を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 支援者 家庭介護力が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> 支援者や地域全体の高齢化 エリア全体が超高齢地域。独居高齢者や老老介護世帯が多く、子どもがいない、親族が遠方で高齢・疎遠、などの理由で家族や親族による扶助・支援が受けられないケースが多い。
音戸・倉橋	<ul style="list-style-type: none"> 複合的課題 認知症、精神疾患、同居家族の問題、経済的困窮、虐待、キーパーソン不在などの要因が重なることで、ケースが複雑困難事例化している。 	<ul style="list-style-type: none"> 複合的課題・連携 各世帯の課題解決に必要な関係機関と連携し、課題解決のための支援を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 孤立・複合化課題 家庭内の状況、課題が周囲に見えづらく、情報を得にくい。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域連携・孤立 近隣のつながりが希薄であり、孤立するケースが多い。